


(シラバス No.1) (基盤科目)

科目名	研究方法特別演習 I 英語名: Special Seminar on Study Method I	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	今津 孝次郎	
【授業概要】				
<p>教育の一般的な議論には「ことば」とその使用（言語表現）に乱雑が見られ、基本的な問題設定や問題解明そして問題解決策を歪ませる傾向がある。主観的要素が強く客観的要素が弱かったり、教育目標が前面に出て教育実態の冷静な把握が後方に追いやられるような性質を帯びやすい。そこで、教育に関することばや叙述を相対化し、一段高いメタ認知的な視点から、教育問題の解明と解決にあたる言語表現を検討する。こうした視点とその立場からの検討内容を総合するのが「教育言説」論である。具体的には「いじめ」「児童虐待」「体罰」「心の教育」「教師の多忙化」「教師の同僚性」などを遡上に載せ、それらの論じ方について教育言説の教育社会学的アプローチから問い直すとともに、自身の研究テーマに関して教育言説論の立場で検討を行う。</p>				
【キーワード】				
教育言説、主観と客観、メタ認知、教育目標と教育実態、教育問題の解明と解決				
【授業の到達目標】				
教育言説の視点を理解し、さまざまな教育問題の解明と解決を目指すうえでの論述を相対化することができ、メタ認知の観点から教育事象の客観的な分析と考察を行える基礎的な研究態度を習得する。				
【スクーリング実施の有無】				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本演習のねらい・進め方			
2	教育言説論の視点の成立と展開			
3	教育言説の論点の概説			
4	教育言説の検討の実際 (1) 児童虐待へのまなざしと論じ方			
5	教育言説の検討の実際 (2) いじめ問題へのまなざしと論じ方			
6	教育言説の検討の実際 (3) 体罰問題へのまなざしと論じ方			
7	教育言説の検討の実際 (4) 心の教育の経緯と成立とその論じ方			
8	教育言説の検討の実際 (5) 教師の多忙化へのまなざしと働き方改革			
9	教育言説の検討の実際 (6) 教師の同僚性へのまなざしと論じ方			
10	教育言説の視点から教育問題の問いの立て方を学ぶ (1) マスメディアに見る教育言説とその変遷を中心に			
11	教育言説の視点から教育問題の問いの立て方を学ぶ (2) 教育の「問題の立て方」			
12	教育言説の視点から教育問題の問いの立て方を学ぶ (3) 教育の「論じ方」と言語表現			
13	教育言説の視点から教育問題の問いの立て方を学ぶ (4) 教育の「問題対処法」と「教育対応法」			
14	教育言説の視点から教育問題の問いの立て方を学ぶ (5) 教育研究の「言語表現」に見る研究倫理			
15	教育言説論の有効性と諸課題			
試験				
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】				
テキストである今津孝次郎・榎田大二郎編『続 教育言説をどう読むかー教育を語ることばから教育を問い直す』に目を通して、教育言説の視点について事前にある程度の知識を得ておく。				

【スクーリングでの学修内容】

スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何を指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。

学修の初期のスクーリングに関しては、スクーリング前には各自の研究テーマに関して用いる用語の諸検討を行う。スクーリング後には各自の研究テーマと研究方法に関して用いる用語と叙述展開についての諸検討を行う。

学修の終期のスクーリングでは、研究テーマと研究方法が教育問題の解明と解決にとって意義あるものかどうかの検討を事前学習し、スクーリング後には、研究テーマと研究方法について改善する事後学習を行う。

スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。

【評価方法】

合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。

【テキスト】

今津孝次郎・樋田大二郎編『続 教育言説をどう読むかー教育を語ることばから教育を問い直す』新曜社、2010年

【参考図書】

今津孝次郎・樋田大二郎編『教育言説をどう読むかー教育を語ることばのしくみとはたらきー』新曜社、1997年

今津孝次郎『いじめ・虐待・体罰をその一言で語らないー教育のことばを問い直すー』新曜社、2019年

【教員メッセージ】

教育問題に関する一般的な議論がマスメディアにあふれていますが、どちらかといえば表面的で掘り下げに欠ける傾向にあることについて、ことばの用法を手掛かりに議論していきます。

【備考】

特記事項なし